

第4回 福島県における復興祈念公園のあり方
(基本構想への県提言)
検討有識者会議

【第3回有識者会議における主な意見】

平成28年3月23日

福島県土木部まちづくり推進課

1. 第3回有識者会議等における主な意見の整理

【全体の表現】

- マクロ的な観点で福島を語るべきであり、東京、日本社会全体、世界などを視野に入れ、悲しみの克服に対する自らの位置付けや決意を強く語る方が説得力を持つ。
- 提言は、3つの柱で被災者の心情を捉えきれていないので、無理にまとめず表現する。
- 「被災を将来につなげる」や「復興の姿を国内外に示す」に関する見出しと内容を再整理する。
- 「悲しみ」や「怒り」、「悲劇」と「奇跡」といったキーワードも使う。
- 「骨子」に力が感じられないので、三人称的な表現ではなく、一人称で感情的に表現する。
- 提言は、客観的な事実を抽象的な表現の中に盛り込むことが、強いメッセージになる。
- 私的な視点から「悲しい」「大変」と語ることは、短期的な共感や同情を生むが、長期的には風化してしまうため、福島が自らを客観的に三人称で語る方が強い説得力を持つ。
- どこかに地元の方の想いを反映する。

1. 第3回有識者会議等における主な意見の整理

【全体の表現】

- 「復興祈念公園のあり方」は、周辺の復興状況を含めて考えるべきであり、公園の周辺地域へも視点を広げる。
- 被災者が複合災害を克服し地域に戻るため、公園が追悼・鎮魂や集いの場であることを示す。
- アーカイブ拠点施設との連携等が大切である。
- 浪江町では、原子力に頼らないエネルギー活用、防災・減災のまちづくり、従来の生業を復活したまちづくり等を考えており、まちづくりと連携した公園とする。
- 世界に発信することから、福島を直接訪れたことの無い人も理解できるように工夫する。
- 県民の皆様の想いに応えるように国に伝える旨の記載とする。

1. 第3回有識者会議等における主な意見の整理

【前文・終わりに】

- 「前文」と「終わりに」は、回帰的にまとめる。
- 「前文」では、原発事故も加わった未曾有の複合災害だということを正面から受け止め、救助活動が遅れたことなど福島県特有の状況を取り入れる。
- 「前文」は、複合災害について、地元の方々の想いを踏まえ、魂を入れた表現とする。
- 「終わりに」では、ふくしまが震災を、どう克服していくのか、将来に対する決意を総括する。

1. 第3回有識者会議等における主な意見の整理

【東日本大震災で犠牲となった全ての生命への追悼と鎮魂】

- 「追悼と鎮魂」に、原子力災害に関する記載を入れる。
- 「追悼と鎮魂」に、故郷への想いの心の拠り所となることなどを入れる。

1. 第3回有識者会議等における主な意見の整理

【着実に復興を進めていくふくしまの姿を国内外へ示す】

- 福島から遠く離れて暮らす人達、特に子供達は、震災前の故郷の姿が唯一の記憶であり、着実に復興を進める姿を見たいわけではないので、震災前の姿や生活を想起させる公園とする。
- 福島を想い、福島にこだわる人を増やす努力が復興のプロセスとして必要であるため、帰還する方、帰還できない方双方見据えた公園とする。
- 将来、福島と同じ悲惨な経験をするかもしれない世界の人々が、福島が復興する姿を見て、同じように頑張ろうと思うようなメッセージや福島の姿を国内外に示していく。
- 福島県民だけでなく、世界各地の方々が復興祈念公園と関われるように、公園から発信される情報を得ながら、福島に想いを馳せ、その想いが公園に戻ってくるような仕組みとする。
- 対象者を誰にして情報発信するのか整理する。

1. 第3回有識者会議等における主な意見の整理

【着実に復興を進めていくふくしまの姿を国内外へ示す】

- 周辺の復興を先導、リードするという意味の言葉を入れ、将来にどう伝え、どう克服していくか、未来に対する決意を総括して述べる。
- 復興祈念公園を造ることによって、住民帰還のさきがけにするという意志を見せる。
- 復興が進んだ風景を新たな故郷として子供達が引き継ぐため、新しい地域の姿を空間的、機能的にリードしていく存在として公園がある。
- 交流人口の増加は大事な視点であり、全住民避難から帰還を目指す中で、公園が地域再生のさきがけとして、復興をリードし、情報発信の場となるような位置づけとする。
- 広島の平和記念公園のように、多くの人に来て、世界に情報発信することが福島でも求められている。

1. 第3回有識者会議等における主な意見の整理

【ふくしまの被災を将来につなげる】

- メモリアルは、公共的に共有される未来への決意であり、世界に引き継がれていくメッセージを込める。
- 人々の交流による福島との想いの共有の場として、全世界から多くの人々が来る公園となって、福島のことを伝える。
- 複合災害であるが故の「全住民が避難している」「救える命が救えなかった」「コミュニティや生業が一瞬にして奪い去られてしまった」などを踏まえた記載をする。
- 「被災を未来に繋げる」は、“記憶と教訓の伝承”というキーワードを踏まえ再整理する。
- 震災は日本人全体の大きな転換点であったため、震災と原発事故を伝え、考えることが出来る公園とする。

1. 第3回有識者会議等における主な意見の整理

【その他】

○今後、福島における復興祈念公園の詳細な検討を進めるに当たっては、広島での平和記念公園等の視察も含め、先行している宮城・岩手の祈念公園の現地視察等により具体的なイメージを把握する必要がある。